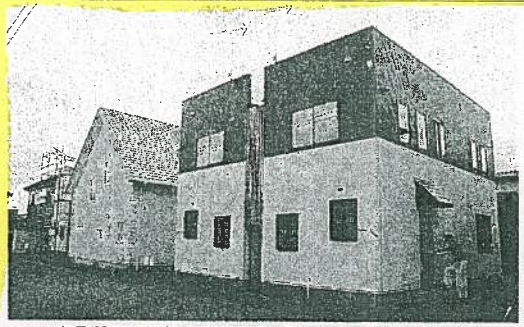
一戸建て賃貸全国展開へ

鹿沼 晃南開発

大手と直取引 低価格実現

住宅設計・建設と不動産の晃南開発（鹿沼市西茂呂1丁目、福田功社長）は本年度、自社開発した低価格一戸建て賃貸住宅の全国展開事業を始めた。大手住宅資材メーカーとの直接取引や、建築工程の合理化で、同規模・同一資材を使った住宅に比べ、建設費を3割削減したという。全国の工務店や不動産会社と提携し、若年世帯向けに「安心して子育てできる賃貸住宅」をアピールし、初年度は県内に100棟、全国で2000棟の建築を目指す。



高品質で低価格の賃貸住宅「アーバンツインキュービック」（右）の建築現場＝鹿沼市千渡

若年世帯向け 年2000棟目指す

福田社長は「集合型の供給が圧倒的に多い賃貸住宅利用者のうち、70%は住環境に不満を持っている」などの調査結果に接し「賃金が右肩下がりの時代、高品質で家賃の安い一戸建て賃貸住宅は、若い消費者の需要が掘り起こせる」と、開発を着想した。

低価格化を図るため、現金取引により三協立山アルミ（富山県高岡市）パナソニック電工AWE（札幌市）など、大手資材メーカーからの直接仕入れを実現。昨年末までに「セント・マリアージュシリーズとして、4タイプの賃貸向け住宅を開発した。

最低価格商品の「シングルキュービック」は木造2階建て、延べ床面積は66・24平方㍍の2LDKで、建築費は648万円（税込み）から。また2世帯が入居できる「アーバンツインキュービック」（1398万円）は、1世帯分をオーナーの自宅とする利用法も提案中という。

今年1月以降、県内で毎月10棟ベースで着工するなど順調に業績を伸ばし、全国展開に向け、関係業者による会員組織「晃南開発合理化システム」も立ち上げた。宇都宮市内で4月下旬に開いた初会合には、全国の建築業者など30社と、計1500店舗を持つ不動産販売・管理会社3グループなどが参加した。

晃南開発グループの2010年3月期の売上高は8億8千万円。11年3月期は「セント・マリアージュ」の普及で16億円を見込む。

（早川茂樹）

県総合文化センター

県都の「顔」また消える

オーベルジュ7月末閉店

県総合文化センター（宇都宮市本町）内の仏料理店「オーベルジュ・デ・マロニエ」が7月末日で閉店することが7日、分かった。県産食材の地産地消にも取り組み、レセプションや結婚パーティー会場として約19年間、県民に親しまれてきたが、中心市街地の空洞化の波に抗しきれなかった。県都の「顔」がまた一つ姿を消す。

本県を代表するフレンチシェフ音羽和紀さん（62）が経営。1991年10月に同センター開館と同時に、ギャラリー棟2階にオープンした。県庁前の並木を見渡せる客席面積は約167平方㍍。

音羽さんは「駐車場がなく、行政の施設なので大きく手を加えることも難しかった。街自体の集客力が落ち、それを超える個性を打ち出せなかった。愛してくれたお客さまには申し訳ない」と語った。

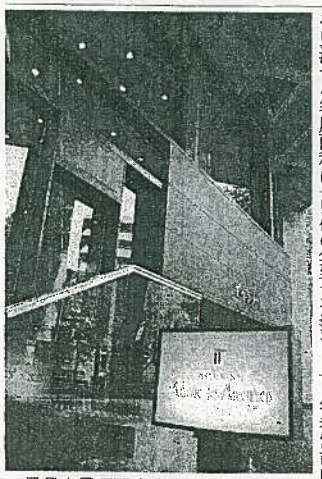
同市内ではほかにレストラン2店舗を経営しており「これをステップに次の展開を考えたい」としている。

宇都宮市内の40代女性は「芸術鑑賞した後に、ゆったりと余韻に浸る場所だった。宇都宮を代表するレストランなので残念です」。

結婚式の2次会を開いた40代男性は「思い出の場所だったのに…。先月閉店したラーメンふみのやに続き、県庁周辺がまた寂しくなる」と嘆いた。

県は、レセプションの要望に対応できること、地産地消に配慮することなどを条件に、新たな出店業者を募集する。今月24日に県庁で出店希望者対象に説明会を開き、7月7日に選考委員会を開く。

（三浦一久、青木友里）



7月末日で閉店することになった県総合文化センターの仏料理店「オーベルジュ・デ・マロニエ」＝7日午後、宇都宮市本町

19日に県など主催

本田研究所で商談会

県内50社、技術アピールへ

県内の自動車関連企業が技術や製品をホンダにアピールし、販路の開拓を目指す「合同技術展示商談会」が19日、芳賀町下高根沢の本田技術研究所四輪R&Dセンターで開かれる。地元企業との取引を通じて、ホンダと本県とのかかわりを一層強める狙いもある。

展示商談会は、県、とちぎ自動車産業振興協議会、県産業振興センター、茨城県、茨城県中小企業振興公社が主催。県は、県内企業の活性化と集積の促進を図るため、自動車など5分野を重点産業に位置付け振興を図っている。2007年12月に発足した同協議会（227企業団体、代表幹事・福田富一知事）が主体となって販路開拓支援や現場改善指導などの事業を展開しており、今回の展示商談会はその一環。

同協議会の会員企業を中心に本県から50社、茨城県から26社が出展し、会場に設けられたブースで独自の技術や工法などを売り込む。同研究所にはホンダの購買本部があり、出展企業は自社の強みを直接アピールできる。会場には、同社に部品を供給している取引企業も招待され、ビジネスマッチングが期待される。

県産業政策課は「地元が食い込んでいく努力も必要で、まずは技術や得意分野を知ってもらうことが大事になる」と指摘。「県内企業が販路を広げ、ホンダ側も地元調達できるようになれば、ともにメリットがあるのではないか」とし、1年以上かけて準備を進めてきた展示商談会の成功に期待を寄せている。

（野口広幸）

鬼怒川の廃業ホテル競売

スタディーが落札

「伊東園ホテルグループ」を運営するスタディー（東京都豊島区、木下泰一社長）が7日までに、日光市鬼怒川温泉の廃業ホテルを競売で落札した。ホテルは同社が運営する伊東園ホテルニューさくら（客室数124室）に隣接しており、今後施設を改修しニューさくらの別館として利用する方針。

ホテルは日光市鬼怒川温泉大原にあり、以前は京屋ホテルとして営業していた。スタディーはこの物件を4月20日に競売で落札した。客室数は37室。

スタディーは全国で約40のホテルを運営し、県内では伊東園ホテルニューさくら、鬼怒川ロイヤルホテル、伊東園ホテル鬼怒川グリーンパレス、一柳閣本館、伊東園ホテル塩原を運営している。

今回のホテル取得により、客室数の合計は県内全体で670室、鬼怒川・川治温泉では597室に増える。

スタディーが運営するホテルは多くが「365日同料金」を導入しているほか、「1泊2食付き6800円」などの低料金を売りにしている。

50年・100年…
あなたと一緒に育てたい
宇都宮証券
本店・宇都宮東・今市・鹿沼・真岡・西那須野
☎028-614-5111㈹

4月の県内新車販売

10カ月連続前年比増

県自動車販売店協会が7日発表した4月の県内新車販売台数は、前年同月比20・1%増の4369台だった。エコカー減税などの効果が継続し、10カ月連続で前年同月を上回った。

車種別では乗用車が3957台で20・0%増えた。このうち3ナンバーの普通乗用車は1917台で57・4%増となり、10カ月連続の増加。一方、5ナンバーの小型乗用車は1・9%減の2040台で、8カ月ぶりに前年割れした。

トラック合計は325台で23・6%増。うち普通トラックは106台で65・6%増となり、4カ月連続の増加。小型トラックは219台で10・1%増となり、3カ月連続で増加した。

また県軽自動車協会によると、4月の軽自動車の新車販売台数は前年同月比3・9%増の2321台で2カ月連続の前年増となった。

学資保険の統一商品扱う

県内6信金

県内の6信用金庫は今月から、統一商品「し

新商品

金利上乗せ子育て積金

大田原信用金庫（大田原市中央1丁目、0287・24・2266）は10日、18歳未満の子どもを持つ親などの扶養者に、金利を上乗せする「子育て支援定期積金」の取り扱いを始める。

子どもの人数によって金利が変わる。現在、3年定期の店頭金利は0・15%前後。子ども1人で0・10%、2人で0・20%、3人以上で0・30%を上乗せする。契約期間は3～5年で、当初金利を満期日まで適用。口座振替で毎月1万円以上の振り込みが必要。11年6月末まで取り扱う。

ウィンストン3商品発売

日本たばこ産業（JT）は6月上旬から、「ウィンストン・ライト・6・ボックス」「ウィンストン・エクストラ3・ボックス」「ウィンストン・ウルトラワン・100's・ボックス」の3商品を全国発売する。

1本のタール値はライトが6㍉グラム、エクストラ3が3㍉グラム、ウルトラワンが1㍉グラム。独自香料使用によるしっかりとした吸い応えと、チャコールフィルター搭載によるすっきりとした後味が特徴。3商品とも20本入り290円。

短信

15日に健康住宅セミナー

NPO法人「健康と省エネ住宅を普及する全国会」県本部（本部長・岩原臣男岩原住宅販売社長、0120・150764）は15日午後1時30分から、宇都宮市中今泉3丁目の同市東市民活動センターで「満足できる家づくりセミナー～『省エネルギー』を基本にした『健康住宅』～」を開く。

同会の小屋智裕理事長、菅原研究所所長で保健学博士の菅原明子さんの講演のほか、特許の空気改質装置を備えた木造住宅「健康太郎の家」を発明した岩原社長による解説、消臭機能体験会などを予定している。託児サービスあり。参加無料。事前予約制。

19日に経営セミナー

今市青年会議所（0288・30・1171）は19日午後7時から、日光市平ケ崎のプライダルパレスあさので経営セミナーを開催する。